

問題解決技法入門

6. スポーツ・スケジューリング

文教大学
堀田 敬介

演習

日付	学籍番号	氏名
/ / ()		

問) 6チーム (A, B, C, D, E, F) の総当たり対戦スケジュールをつくれ

チーム\スロット	1	2	3	4	5	Home	Away	ブレーク数
A								
B								
C								
D								
E								
F								
							計	

- Home-Awayを決定しなさい (Awayのチームを○で囲む)
- チーム毎のブレーク数を数えなさい

SPORTS SCHEDULING

考慮したい条件: Home-Away, Break数

- 対戦は必ず一方がHomeでもう一方がAwayとする
- あるチームのHome-Awayパターンの中に, HH, AA のように, HomeやAwayが2回連続する場合, ブレイクという

(※競技によっては Home v.s. Home や
Away v.s. Away もありうる)

チーム\スロット	1	2	3	4	5
A	A	H	H	H	A
B	H	A	A	H	H
C	A	A	H	H	A
D	A	H	A	A	H
E	H	A	H	A	H
F	H	H	A	A	A

Home-Away table

- ブレイク数最小化
- ブレイク数の偏り最小化

【Home-Away table を作る際の注意点】

- 同じパターンのチームが2つあるのはダメ
(なぜか?)

team A: HAHAH

team B: HAHAH



- 各スロットでHとAの数が異なってはダメ
(なぜか?)

H
A
A
H
H
H



(※ Home-Away table 1・2を満たしても, スケジュールが組めるとは限らない)
(※与えられたHome-Away tableでスケジュールができるかどうかの判定はNP困難)

SPORTS SCHEDULING

考慮したい条件: 総移動回数

- チームの移動回数とは, 試合場を移動する回数のこと
 - HH → 移動0回, HA → 移動1回, AH → 移動1回, AA → 移動1回(?)
- 全チームの移動回数の合計が総移動回数

チーム\スロット	1	2	3	4	5	移動回数	ブレイク数
A	A	H	H	H	A	2	
B	H	A	A	H	H		
C	A	A	H	H	A		
D	A	H	A	A			
E							
F							

- 総移動回数最小化
 - 総移動回数最小化 = 等価 = ブレイク数最大化
 - ブレイク数を小さくしようとすると, 総移動回数が増え, 逆もなりたつ(トレードオフ)

SPORTS SCHEDULING

(※coe値の定義は、強豪チームに限ったものではないことに注意)

(※最終日の次の日は初日と定義することに注意)

考慮したい条件: coe (carry-over effect)

- 強豪チーム(A)と対戦し疲弊したチーム(B)と次に戦うチームは有利だろう
- d 日目 [team i v.s. team k], $d+1$ 日目 [team j v.s. team k] のとき, 「team i が team j に carry-over effect を与える」と定義

チーム\スロット	1	2	3
A(強豪)	B	C	D
B	A	D	C
C	D	A	B
D	C	B	A

1日目 [A v.s. B]

2日目 [D v.s. B] (強豪Aと対戦後でBは疲弊中)

→ A が D に coe を与えた ($c_{AD}=1$)

2日目 [A v.s. C]

3日目 [B v.s. C] (強豪Aと対戦後でCは疲弊中)

→ A が B に coe を与えた ($c_{AB}=1$)

3日目 [A v.s. D]

1日目 [C v.s. D] (強豪Aと対戦後でDは疲弊中)

→ A が C に coe を与えた ($c_{AC}=1$)

- coe行列

$$(c_{ij}) = \begin{matrix} & A & B & C & D \\ \begin{matrix} A \\ B \\ C \\ D \end{matrix} & \begin{bmatrix} 0 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 & 1 \\ & & 0 & \\ & & & 0 \end{bmatrix} \end{matrix}$$

1日目 [B v.s. A] 2日目 [C v.s. A] → B が C に coe を与えた ($c_{BC}=1$)

2日目 [B v.s. D] 3日目 [A v.s. D] → B が A に coe を与えた ($c_{BA}=1$)

3日目 [B v.s. C] 1日目 [D v.s. C] → B が D に coe を与えた ($c_{BD}=1$)

※チーム数 $2n$ とすると, coe値が最小となるのは,
非対角要素が全て1のとき, 即ち

- coe値 = $\sum_{ij} c_{ij}^2 \{ \geq 2n(2n-1) \}$ $\forall i, j (i \neq j), c_{ij} = 1$ のときで $2n(2n-1)$ balanced schedule

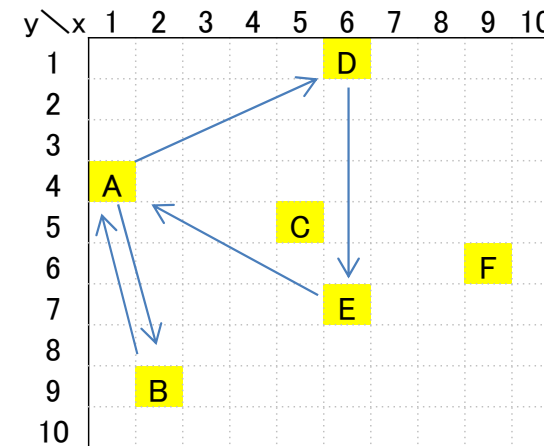
SPORTS SCHEDULING

考慮したい条件: **総移動距離** (巡回トーナメント問題)

- 各チームの移動距離の総和を最小化する

チーム\スロット	1	2	3	4	5
A	D	E	C	B	F
B					
C					
D					
E					
F					

2次元座標上の本拠地の位置



→ team Aの移動

2チーム間の単純2点間距離行列

			A	B	C	D	E	F
			1	2	5	6	6	9
			4	9	5	1	7	6
A	x	y	0.00	10.20	8.25	11.66	11.66	16.49
B	2	9	10.20	0.00	10.00	17.89	8.94	15.23
C	5	5	8.25	10.00	0.00	8.25	4.47	8.25
D	6	1	11.66	17.89	8.25	0.00	12.00	11.66
E	6	7	11.66	8.94	4.47	12.00	0.00	6.32
F	9	6	16.49	15.23	8.25	11.66	6.32	0.00

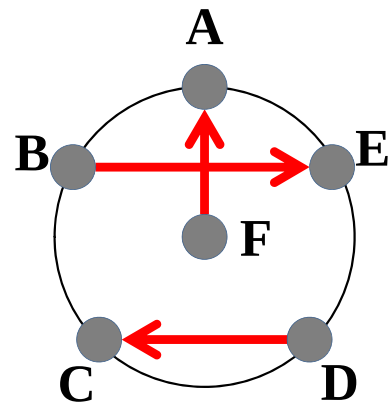
SPORTS SCHEDULING

考慮したい条件:その他

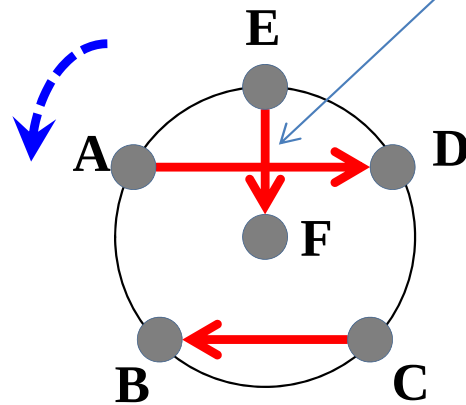
- TV放映権
- 会場(Home/本拠地)の都合
- 次の試合日は連続する日か? それとも何日か後か?
- 優勝争いは最終日までもつれて欲しい
- 様々な条件における, チーム間の公平性
- etc.

SPORTS SCHEDULING

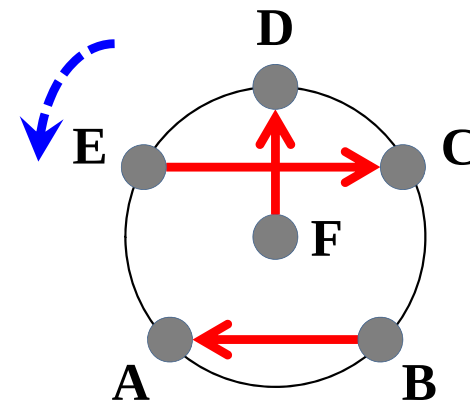
基準スケジュール(Kirkman)



スロット1



スロット2



スロット3

...

チーム\スロット	1	2	3	4	5
A	F	D	B		
B	E	C	A		
C	D	B	E		
D	C	A	F		
E	B	F	C		
F	A	E	D		

注) 背景色付きがAway

参考文献

- R.V. Rasmussen, M.A. Trick, ``Round robin scheduling –a survey,’’ European Journal of Operational Research 188 (2008) 617-636.
- R. Bao, ``Time relaxed round robin tournament and the NBA scheduling problem,’’ Cleveland State University, Ph.D Thesis (2009).
- 松井知己,「スポーツスケジューリング ～トーナメント表作成問題における組合せ論」
- 宮代隆平, 松井知己,「スポーツスケジューリング ～未解決問題を中心に」オペレーションズ・リサーチ Vol.50, no.2 (2005) 119-124.
- 早野大介,「スポーツの試合日程が勝敗に及ぼす影響についての一考察 ～NBAを例として」文教大学 情報学部 卒業論文 (2013).